



3-8. 富田の昔と現在の町割りの比較

江戸時代前期の富田地図と現在の地図を重ねて見ました。

昔の町の名前は、富田の“まち”を理解するうえで重要な要素になります。

江戸時代の絵図の道をウォーキングすると富田のまちの生い立ち、地形・性格が良く理解できるのではないかと思います。

現在、筒井池の大半は埋め立てられてしまいましたが、もとは本照寺のすぐそばまで広がっており、昭和40年代までは池に映る美しい寺の姿を見ることができました。

江戸時代の絵図には、南西部に大きく筒井池が描かれ、北東に旧東岡宿、布屋のある新西之口町、東側には紅屋、南側に教行寺、西側には普門寺、本照寺といった寺院が建ち並んでいる様子が描かれています。今もその多くが当時の姿をとどめており、富田の歴史的景観をかたちづくっています。

現在の筒井池は、真ん中に道路が通り、道を挟んで西側は筒井池公園、東側は富田支所と公民館となっています。春先には桜が咲き乱れて、歴史の香り漂う町並みに彩りを添えています。